

# 米盛病院 整形外科専門研修プログラム

## 〔目次〕

1. 米盛病院整形外科専門研修プログラムの理念・使命・特徴
2. 専門知識/技能の習得計画
3. リサーチマインドの養成および学術活動に関する研修計画
4. コアコンピテンシーの研修計画
5. 地域医療に関する研修計画
6. 専攻医研修ローテーション(モデル)
7. 専攻医の評価時期と方法
8. 専門研修管理委員会の運営計画
9. 専門研修指導医の研修計画
10. 専攻医の従業環境の整備機能(労務管理)
11. 専門研修プログラムの改善方法
12. 専門研修の休止・中断, 研修プログラムの移動
13. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

# 1. 米盛病院整形外科専門研修プログラムの理念・使命・特徴

## ① 専門医研修プログラム制度の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様には質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療、並びにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心こもった医療を提供する使命があります。

## ② 米盛病院整形外科専門研修プログラムの特徴

米盛病院は、救急科を併設する整形外科を中心とした病院であり、整形外科は、外傷グループ、脊椎グループ、関節グループ、一般整形外科グループの4グループから構成されるチーム医療として入院・手術加療を行っています。整形外科専門医の資格を有する経験豊富な14名の指導医が在籍しており、充実した研修を支援します。対象疾患・外傷も多岐にわたり、約3,500症例近くの整形外科手術症例は、県内で見ても有数であり、必要症例数を上回る様々な症例を経験することができます。当院は、薩摩半島と大隅半島という隔たりや離島が多いという鹿児島県の地理的不利の中で迅速な対応を可能にすべく、救急医療用ヘリ、ドクターカー、ドクターバイクを配備しており、24時間体制の対応ができる環境があります。したがって重症救急外傷症例が多いということも特色のひとつとなっています。さらには、Ope室、CT、血管造影を統合したハイブリッドERを設置しており、重症患者に対する可能な限り早い緊急手術を経験することができます。また、米盛病院は他県にある施設と互いに研修を行う関係性をこれまでに築いています。鹿児島とは異なる地域性における患者対応の経験を得ると共に、診療経験の幅を広げる目的で他県での研修を行います。他県の連携施設である新小文字病院では、例として、整形外科疾患に循環器疾患を合併した症例に対して、循環器内科の医師と連携して、心臓カテーテル検査及び治療後の患者管理の経験や、平均在院日数が短い患者管理の経験等を得ることができます。

## ③ 専門研修後の成果

米盛病院整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力(知識・技能・態度)が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- ・ 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- ・ 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること(プロフェッショナルリズム)
- ・ 診療記録の適確な記載ができること。
- ・ 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- ・ 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- ・ チーム医療の一員として行動すること
- ・ 後輩医師に教育・指導を行うこと。

## 2. 専門知識/技能の習得計画

### ① 専門研修の方法

- ・ 専攻医は、日本整形外科学会発行の専門研修プログラム整備基準「付属資料13」整形外科専攻医研修マニュアルを参照し、各種付属資料を活用して研修を行います。  
研修を指導する指導医は、同「付属資料13」整形外科専攻医研修マニュアルに準拠した研修を行うためにマニュアル内容を熟知するとともに、一定の標準とする指導を行うために同「付属資料12」整形外科指導医マニュアルを活用します。

#### ■ 日本整形外科学会整形外科専門研修プログラム整備基準「付属資料」一覧

|                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 付属資料1 「専門知識習得の年次毎の到達目標」 | 付属資料2 「専門技能習得の年次毎の到達目標」 |
| 付属資料3 「整形外科専門研修カリキュラム」  | 付属資料6 「研修方略」            |
| 付属資料8 「指導医評価表(専攻医用)」    | 付属資料9 「専攻医獲得単位_学会報告書」   |
| 付属資料10 「専攻医他職種評価表」      | 付属資料12 「整形外科指導医マニュアル」   |
| 付属資料13 「整形外科専攻医研修マニュアル」 |                         |

- ・ 1・2年次では、各病院の指導医の助言・指導のもとで、日常の診療現場で遭遇する外傷・疾患についての知識と治療技術を身につけ、主たる診療医として外来診療・手術が行えるようになります。
- ・ 3年次では、各領域の不足症例及び単位の研修に加え、地域医療研修病院での地域医療の研修を行います。
- ・ 4年次では、リウマチ・腫瘍・スポーツといった専門性の高い研修に加え、リサーチマインドの素養を修得していきます。  
各領域の必修症例数、単位数を修得した専攻医は、流動単位によって脊椎や外傷など希望する分野を専攻することができ、将来希望するサブスペシャリティ領域に重点を置いた専門研修を行うことが出来ます。

### ② 到達目標

- ・ 研修内容を修練するにあたっては、「付属資料6」に従って1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9ヶ月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。
- ・ それぞれの領域で研修する中でも、基本的診療能力を身につけることを重視し、「付属資料1、2」に年次毎に定められた専門知識・技能を早期に修得するよう指導します。  
また、研修を行う中で、「付属資料3」に明示された数の手術・症例・検査を経験します。

### ③ 研修スケジュール

- ・ 指導医毎に、外来・手術・病棟回診・救急当番と1週間ですべて網羅しており、治療方針の決定過程を学びます。
- ・ 毎週月曜日の朝は、手術(術前、術後)のカンファレンスを、各診療科の医師が合同で行います。  
専攻医は、第4週の月曜日、指導のもとに症例報告を行います。
- ・ 各職種の主催で行われるカンファレンスに参加することにより、他職種との協力やリーダーシップの養成を図ります。

#### ◎ 週間スケジュール(各グループ別)

| 分野     | 月             | 火                  | 水             | 木             | 金             |
|--------|---------------|--------------------|---------------|---------------|---------------|
| 関節グループ | AM 外来/病棟回診/手術 | AM 外来/救急当番/手術      | AM 外来/手術      | AM 外来/手術      | AM 外来/病棟回診/手術 |
|        | PM 外来/病棟回診/手術 | PM 外来/救急当番/病棟回診/手術 | PM 外来/救急当番/手術 | PM 外来/病棟回診/手術 | PM 病棟回診/手術    |
| 外傷グループ | AM 救急当番       | AM 救急当番/手術         | AM 外来/救急当番    | AM 救急当番/手術    | AM 外来/救急当番    |
|        | PM 救急当番       | PM 救急当番/手術         | PM 外来/救急当番    | PM 救急当番/手術    | PM 外来/救急当番    |
| 脊椎グループ | AM 外来/手術      | AM 外来/手術           | AM 病棟回診/手術    | AM 外来/病棟回診    | AM 外来/病棟回診    |
|        | PM 病棟回診/手術    | PM 病棟回診/手術         | PM 病棟回診/手術    | PM 手術         | PM 病棟回診       |
| 総合グループ | AM 外来/手術      | AM 病棟回診/手術         | AM 外来         | AM 外来/病棟回診    | AM 手術         |
|        | PM 外来/病棟回診    | PM 手術              | PM 病棟回診/手術    | PM 外来/救急当番    | PM 手術         |

#### 備考

- ・ 外傷グループは、救急当番と病棟回診を兼ねる。
- ・ 病棟回診の後に、各グループ毎で症例検討会を行っている。看護師、理学療法士、MSW等の医療従事者と合同で行うものである。

#### ◎ 月間スケジュール(米盛病院共通)

| 週   | 月                  | 火                  | 水                  | 木                  | 金                  |
|-----|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 第1週 | AM Opeカンファレンス      |                    |                    |                    |                    |
|     | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス |
| 第2週 | AM Opeカンファレンス      |                    |                    |                    |                    |
|     | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス |
| 第3週 | AM Opeカンファレンス      |                    |                    |                    |                    |
|     | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス |
| 第4週 | AM Opeカンファレンス      |                    |                    |                    |                    |
|     | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス | AM・PM 各グループカンファレンス |

#### 備考

- ・ 毎週月曜日のOpeカンファレンス及び各グループカンファレンスは、指導医のスケジュールに合わせて出来る限りの参加とする。

### ④ 自己学習/臨床現場を離れた学習

- ・ 院内図書室では、日本整形外科学会雑誌やJournal of Orthopaedic Science、等の様々な書物の他、端末を設置しており、研修用DVDや文献検索サイト(MedicalOnline)を活用して、診断、検査、治療等について、より広く、より深く学習することができます。
- ・ 米盛病院は、「ラーニングセンター」という体験型の学習が実践できる施設を有しております。「ラーニングセンター」では様々な研修コースを米盛病院主催で定期的に行っており、運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力や救命処置を学ぶことが出来ます。

| コース名  | 研修内容   |
|---|--|
| BLS<br>(Basic Life Support)   | 心肺停止時の蘇生法であり、特殊な器具や医薬品を用いずに行う救命処置。<br>胸骨圧迫と人工呼吸からなる心肺蘇生法、AEDの使用を学習。            |
| ICLS<br>(Immediate Cardiac Life Support)                                  | 「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」の習得を目標。<br>講義室での講義はほとんど行わず、実技実習が中心。             |
| ACLS<br>(Advanced Cardiovascular Life Support)                            | 気管挿管、薬剤投与の高度な心肺蘇生法を行うが、心停止時のみならず重症不整脈、<br>急性冠症候群、急性虚血性脳卒中の初期治療までを学習。           |
| JPTC<br>(Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care)                    | 病院前救急医療の現場におけるロード&ゴーの概念を理解し、<br>各段階で必要とされる観察・処置を見落としなく迅速にできるようにする。             |
| JATEC<br>(Japan Advanced Trauma Evaluation and Care)                      | 日本外傷学会・日本救急医学会が監修。<br>医師を対象に「防ぎ得た外傷死」を回避するためのスキルを学ぶ二日間の外傷初期診療コース。              |
| Emargo  | エマルゴトレーニングシステムRを用い、<br>災害や多数傷病者発生時案への現場対応・搬送・病院内の受け入れを学ぶシミュレーションコース。           |
| MCLS<br>(Mass Casualty Life Support)                                      | 日本集団災害医学会が中心となり開発した、多数傷病者発生時の初期対応を学ぶ。<br>消防職員・警察職員・医療従事者など多彩な職種が対象。            |
| PHTLS<br>(PreHospital Trauma Life Support)                                | 外因性障害の患者の評価を順々に進め、患者の緊急度や病態を判断し、<br>状態の安定を図りながら、適切な施設へ収容することを目的とする。            |
| AMLS<br>(Advanced Medical Life Support)                                   | 病院前診療で遭遇する内因性障害の患者の評価を順々に進め、緊急度や病態を判断し、<br>状態の安定を図りながら適切な施設へ収容することを目的とする。      |
| PEARS<br>(Pediatric Emergency Assessment, Recognition, and Stabilization) | 心停止に至る危険な徴候に気づき、アセスメントし、重症化を防ぐ安定化を学ぶ。<br>小児をテーマとし、心停止と呼吸障害・ショックなどの危機的状況の認識を行う。 |

### 3. リサーチマインドの養成および学術活動に関する研修計画

#### ① 学問的姿勢

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得することができることを一般目標とし、以下の行動目標を定めています。

- ・ 経験症例から研究テーマを立案し、プロトコルを作成できる。
- ・ 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
- ・ 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
- ・ 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。
- ・ 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
- ・ 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

#### ② 学術活動

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を取得します。また、年1回以上の学会発表、筆頭著者として1編以上の論文を作成します。その中で、本研修プログラムでは学術活動として、下記の項目を定めています。

- ・ 年1回以上の日本整形外科学会主催学術総会及び集会への参加
- ・ 各領域での研修時、日本整形外科学会が主催、又は、認定する教育研修会を1回以上受講する。

### 4. コアコンピテンシー(医療倫理、医療安全、院内感染対策等)の研修計画

コアコンピテンシー(医療倫理、医療安全、院内感染対策等)を学ぶために、米盛病院及び各研修施設が、それぞれ年2回行う倫理・医療安全・感染対策の講習会に参加します。また、関連する医療従事者と協力してチーム医療を学ぶために、定期的に行われる各種委員会に参加します。

### 5. 地域医療に関する研修計画

#### ① 院内での研修

すべての専攻医は、3ヶ月間地域医療の研修を行います。地域医療の研修を行う施設では、少人数の施設での危機管理能力やメディカルスタッフとの協力体制の重要性など、医師として自立するための必要な経験を積むことができます。地域密着型の施設であり、周辺の医療施設との病診連携を学ぶことができます。また、各地域医療研修施設の周辺地域は、高齢化が進んでおり、介護を必要とする地域住民の方々に対して、老人保健施設や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所等の施設と連携し、介護や在宅医療・看護を提供することによって、介護保険制度を理解し、介護保険制度における医師としての役割を学びます。

#### ② 院外活動

研修期間内に1回以上、小・中学校での学校検診や、地域住民への医療セミナー講習を行い、地域住民との関わりを持ち、コミュニケーション能力を高めます。

## 6. 専攻医研修ローテーション(モデル)

### ◎ 研修コース(研修施設のローテーション例)

|           |      | 専攻医1 |      |              |              | 専攻医2 |      |      |              |              | 専攻医3         |              |              |              |              |
|-----------|------|------|------|--------------|--------------|------|------|------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 研修領域      | 研修施設 | 1年目  | 2年目  | 3年目          | 4年目          | 1年目  | 2年目  | 3年目  | 4年目          | 各領域合計        | 1年目          | 2年目          | 3年目          | 4年目          | 各領域合計        |
|           |      | 基幹施設 | 基幹施設 | 基幹施設<br>地域医療 | 基幹施設<br>連携施設 | 連携施設 | 連携施設 | 連携施設 | 基幹施設<br>地域医療 | 基幹施設<br>連携施設 | 基幹施設<br>地域医療 | 基幹施設<br>地域医療 | 基幹施設<br>地域医療 | 基幹施設<br>連携施設 | 基幹施設<br>連携施設 |
| a. 脊髄・脊髄  | 6単位  | 3    | 3    |              |              |      | 6    |      |              | 6            |              |              | 2            |              | 6            |
| b. 上肢・手   | 6単位  | 3    | 3    | 2            |              | 6    |      |      |              | 6            |              | 6            |              |              | 8            |
| c. 下肢     | 6単位  | 3    |      | 3            | 1            | 6    |      |      | 3            | 9            |              | 3            |              | 3            | 9            |
| d. 外傷     | 6単位  | 2    | 1    | 3            | 2            |      | 6    |      | 2            | 8            |              | 3            |              | 1            | 7            |
| e. リウマチ   | 3単位  |      | 1    |              | 2            |      |      | 1    |              | 1            |              |              | 2            |              | 2            |
| f. リハビリ   | 3単位  | 1    | 1    | 1            |              |      |      | 4    |              | 4            |              |              | 3            |              | 3            |
| g. スポーツ   | 3単位  |      | 1    |              | 2            |      |      | 2    | 2            | 4            |              |              |              | 3            | 3            |
| h. 地域医療   | 3単位  |      |      | 3            |              |      |      | 3    |              | 3            |              |              | 3            |              | 3            |
| i. 小児     | 2単位  |      | 2    |              |              |      |      | 2    |              | 2            |              |              | 2            |              | 2            |
| j. 腫瘍     | 2単位  |      |      |              | 2            |      |      |      | 2            | 2            |              |              | 2            |              | 2            |
| 計(流動5単位含) | 45単位 | 12   | 12   | 12           | 9            | 12   | 12   | 12   | 9            | 45           | 12           | 12           | 12           | 9            | 45           |

### ◎ 専門研修施設群・指導医

| 研修施設名                   | 指導医名   |
|-------------------------|--------|
| 米盛病院                    | 米盛 公治  |
| 米盛病院                    | 岡村 一幸  |
| 米盛病院                    | 園田 勉   |
| 米盛病院                    | 鈴木 勝   |
| 米盛病院                    | 長谷 亨   |
| 米盛病院                    | 丸山 和人  |
| 米盛病院                    | 水島 正樹  |
| 米盛病院                    | 市川 理一郎 |
| 米盛病院                    | 谷口 暢章  |
| 米盛病院                    | 永吉 隆作  |
| 米盛病院                    | 松山 順太郎 |
| 米盛病院                    | 松尾 卓見  |
| 米盛病院                    | 中沢 不二雄 |
| 米盛病院                    | 高野 純   |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 田中 栄   |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 斎藤 琢   |
| 東京大学医学部附属病院救急部          | 松原 全宏  |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 大島 寧   |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 武富 修治  |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 乾 洋    |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 松本 卓巳  |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 森崎 裕   |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 谷口 優樹  |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 岡田 慶太  |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 松林 嘉孝  |
| 東京大学医学部附属病院リハビリテーション科   | 篠田 裕介  |
| 東京大学大学院医学系研究科 関節機能再建学講座 | 茂呂 徹   |
| 東京大学医学部附属病院22世紀医療センター   | 松平 浩   |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 上原 浩介  |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 山神 良太  |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 加藤 壯   |
| 東京大学医学部附属病院整形外科         | 中元 秀樹  |
| 東京品川病院                  | 金澤 洋介  |
| 一宮西病院                   | 西 源三郎  |
| 一宮西病院                   | 川上 紀明  |
| 一宮西病院                   | 中西 昭登  |
| 一宮西病院                   | 松原 隆将  |
| 一宮西病院                   | 竹本 暁   |
| 福岡和白病院                  | 半仁田 勉  |
| 福岡和白病院                  | 林 和生   |
| 福岡和白病院                  | 光武 慎一郎 |
| 福岡和白病院                  | 佐藤 元紀  |
| 福岡新水巻病院                 | 畠山 英嗣  |
| 新武雄病院                   | 米田 高太郎 |

## 7. 専攻医の評価時期と方法

### ① 形成的評価

- ・ 研修実績の評価には、「付属資料3」、「付属資料10」を活用し、各領域毎の研修終了時及び研修施設移動時に、自己・指導医・他職種評価を行い、また、専攻医は、指導医の指導体制・研修環境に対する評価を「付属資料8」を用いて行い、それぞれを専門研修プログラム管理委員会に提出します。
- ・ 年度末には、「付属資料9」を活用して、各領域における取得単位数・学会発表・論文執筆数・教育研修受講状況を専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

### ② 総括的評価

以下の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の3月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

- ・ 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- ・ 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- ・ 臨床医として十分な適性が備わっていること
- ・ 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
- ・ 1回以上の学会発表、また筆頭著者として1編以上の論文があること。

## 8. 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

### ① 基幹施設の役割

基幹施設である米盛病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。米盛病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位を、すべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

### ② 専門研修プログラムの管理運営体制

- ・ 基幹施設である米盛病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また、専門研修連携施設においては、指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。
- ・ 専門研修プログラムの管理には、「付属資料3,8,10」を用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。
- ・ 上記目的達成のために、米盛病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。年2回の定期委員会を開催し、必要時に臨時委員会を開催します。3月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。

### ③ プログラム管理委員会の役割と権限

- ・ 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- ・ 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。
- ・ 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。
- ・ 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。米盛病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。
- ・ 米盛病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。米盛病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

#### ④ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

- ・ 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医
- ・ 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文3編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

- ・ 専門研修基幹施設である米盛病院部における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- ・ 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

## 9. 専門研修指導医の研修計画

### ① 指導医研修

指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。  
指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案(研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成)、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

### ② 指導医評価

「付属資料8」で専攻医が評価をした内容を指導医は、真摯に受け止め、研修プログラムや指導方法の改善に努めます。

## 10. 専攻医の従業環境の整備機能(労務管理)

各研修施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・ 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・ 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・ 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・ 施設の給与体系を明示します。

## 11. 専門研修プログラムの改善方法

### ① 研修プログラムの評価

研修プログラム管理委員会は、年度末の委員会時、プログラム改善の検討を行います。  
その際、専攻医が評価時期に行う、指導医の指導体制・研修環境に対する評価「付属資料8」を、研修プログラムの改善に活かします。

### ② 研修に対する監査

研修プログラムに対する外部からの監査・調査を受け、研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者、並びに、専門研修指導医及び専攻医は、真摯に対応します。

## 12. 専門研修の休止・中断, 研修プログラムの移動

### ① 専門研修の休止・中断

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は、合計6ヶ月間以内とします。  
限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。  
疾病の場合は、診断書、妊娠・出産の場合は、それを証明する物の添付が必要です。  
留学、診療実績のない大学院の期間は、研修期間に組み入れることはできません。  
また、研修の期間が6ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合もあります。

### ② 専門研修プログラムの移動

専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができます。  
その際は、移動元・移動先双方の研修プログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

## 13. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

### 【専攻医受入数】

各年次:5名 合計:20名

### 【応募方法】

まずは、以下URL『米盛病院 研修医・専攻医採用WEB』内の専門研修お申し込みフォームよりご連絡ください。  
<https://yonemorihp.jp/recruitsite/job/resident/specialist/>

必要書類： ① 申請書 ④ 医師臨床研修修了登録証(コピー)あるいは修了見込証明書  
② 履歴書 ⑤ 健康診断書  
③ 医師免許証(コピー)

### 【募集期間】

4月1日～3月31日

### 【問い合わせ先】

〒890-0062 鹿児島県鹿児島市与次郎1丁目7番1号  
社会医療法人緑泉会 米盛病院  
担当:白石 俊 Tel: 099-230-0100 Fax: 099-230-0101  
Email: jinji@yonemorihp.jp

### 【病院見学のお申し込みについて】

随時、病院見学を受け付けております。  
以下URLページ『米盛病院 研修医・専攻医採用WEB』内の見学お申し込みフォームよりご連絡ください。  
<https://yonemorihp.jp/recruitsite/job/resident/specialist/>